

【口頭研究発表 執筆要領】

1. 投稿原稿は、和文又は英文によるものとし、パソコンを用いて作成したものとする。
また、原稿の作成に当たっては、原稿フォーマットを必ず参照するものとする。
2. 原稿枚数等及び論文の体裁は次によるものとする。

(1) 和文・英文論文共通事項

- ・用紙は、A4 判縦置き、横書きとする。ただし、和文論文で表記上特に必要な場合は、縦書き（この場合も A4 判縦置き）とすることができる。
- ・原稿枚数（図版、注、文献等含む）は、1 ページ当たりの文字数・段組・書体ポイント数に従った上で、原則として 12 ページ以内とし、ページ下中央部にページ番号を印字する。
- ・表題中に (1) (その 1) 等の続報論文を想定する旨の表記は行わない。
- ・原稿第 1 ページの表題下に、著者の所属を和文と英文で書く。この場合、大学教員は大学名、大学院生（研究生を含む）は研究科名、学校教諭等は学校名等を書く。大学の非常勤の勤務先を所属機関として掲載する際は、当該期間の承諾を得る。

【記載例】

大学院生の場合 → ○○大学大学院△△研究科
(graduate school of △△, ○○University)

大学教員の場合 → ○○大学 (○○University)

- ・論文中(注、文献を含む)に著者本人の著による文献等を表記する際、著者名は、「筆者」「拙稿」等とせず、著者本人の名で表記する。
- ・英文要旨は 200 語程度、キーワードは 3 語以上 5 語以内とする。

(2) 和文論文

- ・本文、注、文献のページは 43 文字×41 行 (1 頁分に相当、明朝体 10.5 ポイント)の横 1 段組とし、上下左右の余白はそれぞれ 30mm, 25mm, 25 mm, 25mm 程度とする。
- ・注については、原則として文末脚注とする。
- ・書体は、見出しは MS ゴシック体 10.5 ポイント、本文は MS 明朝体 10.5 ポイントを標準とする。タイトルは MS 明朝体 18 ポイント、サブタイトルは MS 明朝体 14 ポイント、氏名は MS 明朝体 12 ポイント、所属 MS 明朝体 10.5 ポイントとする。英文要旨およびキーワードは century 10 ポイントとする。また、注、引用・参考文献は、見出しはゴシック体 10.5 ポイント、本文は MS 明朝体 10 ポイントとする。
- ・原稿第 1 頁に和文表題、英文表題、和文著者名、和文所属、英文著者名、英文所属、英文要旨、英文キーワードを書き、キーワード の次行から本文、注及び文献の順で書く。
- ・英文要旨については、英語を母語とする者の校閲を経る。
- ・本文は、書き出し及び改行後の書き出し部分を 1 コマ空け、読点は「,」とし、句点は「。」とする。(縦書きの場合は、読点は「,」とする。)
- ・2 桁以上の数字は半角文字、アルファベットは半角を基本とするが、略号等は全角も可とする。
- ・カタカナは全角とする。

3. 注及び文献は、原則としてレイアウト例を参照し、論文末尾にそれぞれ別にまとめる。

①注記は、補足説明とし、本文中の該当箇所に、注1、注2…の肩番号をつけ、論文末尾に番号順に

記載する。

②文献は、本文中で引用・参照されている文献のみとし、本文中の引用・参照箇所に、1)、2)

…の上付右括弧付き数字で肩番号をつけ、下記の記載例により、論文末尾に番号順に記載する。

なお、欧文(ローマ字)誌・書名は、イタリックとする。また、著者が複数の場合は、その全員を

記載する。その際、著者名と著者名の間は、カンマ[,]でつなぐ。

【雑誌論文の場合の記載例】

4) 鈴木一郎(2000)「総合学習における教育実践学的存在論」『総合学習』11(4), 38-39.

7) James, M. (2004) Japanese Education, *Journal of Education*, 16 (20), 58-59.

【書籍の場合の記載例】

3) 田中太郎(1998)『図で読むスクールカウンセリング』ミノルタ書房, 53-68.

6) Chales, A Singlehood, (1987) In Macklin, E. & Rubin, S. (eds.), *Families in postmodern society*, Oxford:Oxford University Press, 34-35.

4. 図、表、写真図版等は、本文中の該当箇所の刷り上がりをイメージした位置に、鮮明に識別できる大

きさで、以下の様式により挿入する。

- ・図(写真図版を含む)は、図 1 (Fig. 1), 図 2 (Fig.2), …, のように、表は、表 1 (Table1), 表 2 (Table2) , …のように通し番号をつける。
- ・図の番号及び見出しは、図の下に記入し、表の番号及び見出しは、表の上に記入する。
- ・図、表、写真図版等の出典は、オリジナルの場合を除き、論文末尾に通し番号順にまとめ、文献の記載例を参考に明記する。

【記載例】 ※出典が著書の場合

図 4 平山礼二『日本画の世界』求龍書店. p.48. 1986

- ・写真図版を含め原稿は白黒印刷とする。
- ・図、表、写真図版の大きさは、刷り上がり 1 ページ以下を原則とする。
- ・図、表中の文字の大きさは、レイアウト原稿中で最小 9 ポイントとする。

タイトルはMS明朝体18pt、副題は同14ptで記入してください。

タイトルと副題の間に1行開ける必要はありません。

副題は全角ハイフンで挟んでください。

保育者養成課程での講義外協働学習プログラム 構築に向けての一考察

— 非認知的能力を焦点として —

著者名は12pt、所属機関は10ptです。所属機関は括弧で括弧して下さい。2行に渡る場合は適宜行を増やして下さい。

高木 悠哉（桃山学院教育大学） 小餅谷 哲男（桃山学院教育大学）

キーワード：

1. 本文の記入について

（1）見出しのレベル

見出しのレベルは、章、節、項の3段階までとします。章、節、項の見出しはMSゴシック体10.5ptとして下さい。章の見出しは上下1行のスペースを空けて下さい。ただし、ページが切り替わる部分などは、章の見出しが最上段になるように適宜調整して頂いて結構です。また、章の見出しには1、2というように数字による番号をつけて下さい。

（2）節の見出し

節の見出しには、（1）などの括弧付き数字で番号をつけて下さい。なお、節の見出しを記入する際は、見出しの上だけにスペースを1行空けて下さい。ただし、この例のように、節の見出しのみが行末に来るような場合は、次ページ最上段になるよう適宜調整して下さい。

（a）項の見出し

項の見出しは、括弧付きのアルファベットを付け、上下にはスペースを空けないで下さい。項より下位の見出しは用いないで下さい。

（3）実験や調査の場合の「方法」の記入について

実験や調査研究を行なった場合、対象者、質問紙、実験期間や手続きなどを「方法」として章にまとめて下さい。

2. 図表の記入について

（1）図表の位置

図表は、最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。末尾にまとめて図表を掲載することは避けて下さい。また、図表の横に本文を記入することは避けて下さい。図表と本文の間には1行程度の空白を空け、区別を明確にして下さい。表のタイトルは上部に、図のタイトルは下部にそれぞれ記入して下さい。なお、本学会では完成原稿の提出を求めています。図表の位置を指定し別ファイルで図表を送付することは避け、正に掲載される原稿を作成して下さい。

〈表の記入例〉

自己欺瞞尺度、印象操作尺度の α 係数を算出したところ、内的信頼性を低下させる項目があったために、各尺度とも4項目ずつを除き、最終的に使用した項目の α 係数はそれぞれ.74, .57であった。社会的勢力尺度の α 係数は.74と充分であった。各尺度に含まれる項目の評定値を合計し、項目数で割り尺度得点を算出した。各尺度得点の平均値と標準偏差、及び相関係数をTable1に示した。

Table1. 記述統計量及び変数間の相関係数

	<i>M</i>	<i>SD</i>	1	2	3
1 社会的勢力	4.00	0.80	-		
2 自己欺瞞	2.79	0.66	.47 ***	-	
3 印象操作	2.53	0.58	.03	.11	-

*** $p < .001$

社会的勢力と自己欺瞞には中程度の正の相関($r = .47, p < .001$)が見られたが、印象操作は社会的勢力、自己欺瞞のいずれとも有意な相関関係は見られなかった。高勢力者においてほど自己欺瞞が生じやすかった。

〈図の記入例〉

次に、社会的勢力の程度により、調査参加者を、高群、中群、低群の3群に分け分析を行った。3群間の社会的勢力の程度は、分散分析を行った結果、群の主効果が有意であり($F(2, 99) = 206.10, p < .001$)、Bonferroni法による多重比較の結果、高群、中群、低群の順に低くその差はすべて有意であった。

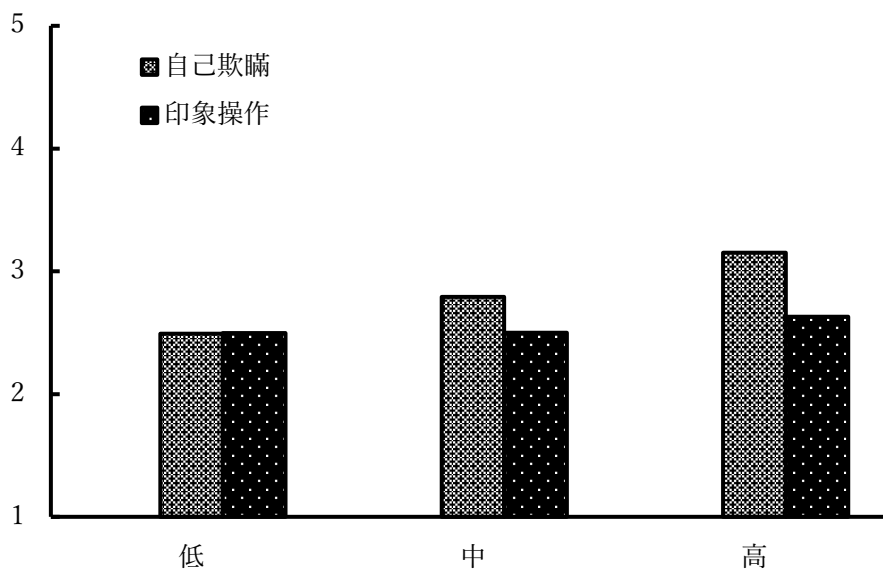


Figure1. 社会的勢力の程度による自己欺瞞得点と印象操作得点

(2) 図表中の文字等

図表はモノクロ印刷を原則としていますので、カラーでのみ理解できるような図表の掲載を避けて下さい。また、写真を図表として掲載する際も、モノクロ化して掲載して下さい。なお、図表中の文字が小さくなりすぎないように注意して下さい。

3. 文献の引用

引用文献は出現順に番号を振り、本文中のその引用箇所を上付右括弧付き数字で指示して下さい。引用文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないで下さい。

〈本文中の引用例〉

原（2018）は具体的に必要な資質・能力について、質の高い遊び環境をつくり出すプロデュース能力、主体性、自立心、時速力、思考力などが子ども達にどのように育ったかを見るアセスメント能力、プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を挙げている¹⁾。これら能力は社会人基礎力と共通する部分があり、実際、保育者養成課程において社会時基礎力を求められる資質・能力として重要視する研究も見られる^{2) 3) 4)}。

末尾の引用文献は、本文最終行から2行空け【引用文献】と見出しを付けてください。見出しの下から1行空けずにリストを書き出してください。参考文献を記載する場合は、引用文献とは別に【参考文献】の見出しを付け、引用文献と同様の手法で記載してください。

〈引用文献の記入例〉

【引用文献】

- 1) 梅本貴豊・田中健史朗（2012）「大学生における動機づけ調整方略」『パーソナリティ研究』21, 138-151. 雑誌
- 2) 伊田勝憲（2003a）「教員養成課程学生における自律的な学習動機づけ像の検討—自我同一性、達成動機、職業レディネスと課題価値評定との関連から—」『教育心理学研究』54, 367-377. 同一年
- 3) 伊田勝憲（2003b）「心理学系科目における向社会的な学習動機づけ像を探る—自意識および個人志向性・社会志向性と課題価値の関連—」『心理発達科学論集』33, 37-48. 書籍
- 4) 梶田叡一（2020）『教育評価を学ぶ：いま問われる「評価」の本質』文溪堂 大会発表
- 5) 松浦美晴・上地玲子・皆川順・岡本響子・岩永誠（2017）「新人保育士のリアリティショック尺度の開発」 日本健康心理学会大会発表論文集 大会発表
- 6) OECD (2015) Skills for Social Progress : The Power of Social and Emotional Skills. OECD publishing
(経済協力開発機構 (OECD) 編 無藤隆・秋田喜代美 (監訳) (2018) 『社会情動的スキル 学びに向かう力』 明石書店) 翻訳書
- 7) Schwinger, M., Steinmayr, R., & Spinath, B. (2009) How do motivational regulation strategies affect achievement: Mediated by effort management and moderated by 雑誌

intelligence. *Learning and Individual Differences*, 19, 621–627.

8) Deci, E. L., & Ryan, R. M. (Eds.) (2002) *Handbook of self-determination research*. Rochester, NY: University of Rochester Press.

9) 文部科学省 (2016) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方に関する調査研究協力者会議 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/070/index.htm 2019年10月10日最終閲覧)

書籍

オンライン

4. 注・謝辞について

脚注や注は出来るだけ避け、本文中で説明してください。どうしても必要である場合は、本文中に注¹⁾、注²⁾、と通し番号をつけて指定し、本文末尾と引用文献との間に、【注】と見出しを付けて記載してください。謝辞は本文末尾と引用文献の間に謝辞：と見出しを付け、その直後から文章を書き出してください。どちらも、見出しの前に1行スペースを空けてください。なお、謝辞と注を併記する場合、謝辞、注の順番で記載してください。科研費等の研究助成を受けた旨を記載する場合、謝辞にその旨を記載してください。